

■ 全体講評

今回の午後 I 記述式問題は、どの問題も例年通り、プロジェクトマネージャとしてもつべき基本的な知識や考え方の理解を問う比較的やさしい問題だったと思われます。本試験でも難問奇問と思えるようなものは、最近、まず出題されることはありません。一般的な専門知識を前提に、問題や設問の意図、説明を十分に理解すれば必ず解答が導ける問題になっています。また、問題文や設問文にある解答制約を適切に把握すれば、正解へたどりつくことができます。誤解答はこの手順に誤りがあった場合、例えば一方的な思い込みや自分自身の特定の経験に対するこだわりなどによって起こりうるもので、設問要求や問題の意図するところを読み取り、確実にいえるレベルの表現で解答していくところに神経を集中する必要があります。

解答のポイントや方向性は間違っていないのに、設問の考えや趣旨からずれている解答も見られています。指示に従っていない解答も散見されています。問題文や設問文に書かれている表現は大きなヒントであり、解答の手掛かりの一部であることをしっかり理解した上で、設問要求に沿って適切な解答表現として解答をまとめるようにしましょう。強引な解答表現や、いろいろなことを列挙してどれかが正解となるだろうと期待するような解答は、正解とならないおそれがあります。注意しましょう。

午後 I 試験では、4 問から 2 問を選択解答する必要があります。解答用紙に選択する問題を記すわけですが、きちんと 2 問選んでいない人、丸を付ける欄を間違えて、採点欄に丸を付ける人が約 1~2 割いるように見受けられます。これは解答以前の問題なので、くれぐれも注意して、指示通り確実に問題を選択することを心がけてください。

解答方法の注意点として、とにかく問題文や設問をよく読むことがあげられます。解答のヒントやそのものを書いてある場合がありますので、それを無視した独善的な解答は避けてください。今回は、漢字の間違いや略字、問題文や設問文と意味のずれた解答がありました。注意しましょう。

論文系の区分の午後 I 試験は試験区分の専門知識がなくても問題文の文脈と一般常識で解答が類推できる場合も少なくありません。最後まで、あきらめず必ず合格するという強い意識をもって臨むようにしましょう。

<午後 I >

問1 システム開発プロジェクトへの利用部門の参画

【採点基準】

〔設問1〕

リスク：解答例と同様の趣旨を適切に表現していれば正解

理由：解答例と同様の趣旨を適切に表現していれば正解、「利用部門が参画していない」だけでは半分

〔設問2〕

開発手法の適用：解答例と同様の趣旨を適切に表現していれば正解、「プロトタイプの実用」、「事前の資料配布」だけでは半分

レビュー時間の短縮：解答例と同様の趣旨を適切に表現していれば正解

〔設問3〕 解答例と同様の趣旨を適切に表現していれば正解

【講評】

比較的正答率が高かった問題と思われます。問題文の手掛かりを明確にしっかりとらえられれば得点につながります。その一方で、利用部門の参画の一般的なセオリーをよく知らない人にとっては解答しにくかったかもしれません。文章記述の解答は、表現が甘く正解とみなし難い場合半分の点数にしています。

設問 1 は、問題文の記述に準じて要点をまとめて解答する必要があります。解答欄の字数を十分に使い、分かりやすい解答表現を心がけましょう。

設問 2 では、「プロトタイプ」、「事前の資料配布」という点だけを挙げている解答が散見されています。どうするのかまでしっかり解答してください。

設問 3 は問 1 の中で最もバラエティに富んだ解答が見られました。一般的にはいろいろな策が考えられますが、問題文の記述を考慮すれば解答が絞られることに注意しましょう。特に「取るべき行動」は、「R 氏を巻き込んだ上位へのエスカレーション」が表現できていれば正解としましたが、解答例のようなプロフェッショナルな表現でまとめた解答はほとんど見られず残念な状況でした。

問2 システム開発プロジェクトの費用管理

【採点基準】

〔設問1〕

(1) 別解なし。「ファンクションポイント」は半分

(2) 解答例と同様の趣旨を適切に表現していれば正解

[設問2]

- (1) 解答例と同様の趣旨を適切に表現していれば正解
- (2) 解答例と同様の趣旨を適切に表現していれば正解

[設問3] 解答例と同様の趣旨を適切に表現していれば正解

[設問4]

- (1) 原則別解なし。「コンティンジェンシリザーブ」、「コンティンジェンシ予備費」は同義とみなし正解
- (2) 解答例と同様の趣旨を適切に表現していれば正解
「すべて足すこと」に言及できていない場合半分

【講評】

前提となる知識の有無が得点率に影響があったものと思われます。内容的には決して難しくはありませんが、敬遠された方が少なくなかったようです。問われている内容をよく理解している場合は高得点につながります。知識や理解が不十分だとうまく解答できないような問題でした。

設問1の見積り技法に関する問いは、知識問題で内容的にやさしかったと思います。ただし(2)で、どうするかまで言及できていない解答が散見されており、その場合得点は半分としました。

設問2は(1)、(2)とも契約とコストに関する施策で教科書的な問いでした。正答率は高かったと思います。

設問3も設問2同様によく試験で問われる観点で、よくその内容や趣旨を整理しておく必要があります。設問2、3も要領よく趣旨をしっかりとめて解答するよう心がけましょう。

設問4は正答率が低かったように見受けられます。(1)、(2)とも知識問題ですが、問題文の記述による誘導があるので、知識が不十分でも解答を導くことが可能なはずですが、(2)はほとんど正解が見られませんでした。いずれにせよ、コンティンジェンシ予備とその計算方法はプロジェクトマネージャの必須な知識としてしっかり身に付けておくようにしましょう。

問3 営業支援システム再構築プロジェクト

【採点基準】

[設問1]

- (1) 解答例と同様の趣旨を適切に表現していれば正解
- (2) 解答例と同様の趣旨を適切に表現していれば正解
なお「要件定義」言及していないものは半分

[設問2]

- (1) 「要件定義の確認が不十分な場合は、必要な要件が十分に引き出されないため、仕様変更が多発するおそれがある」と同様の趣旨を適切に表現していれば正解

- (2) 原則別解なし。「プロトタイプ」は「試作品」という意味で手法を意味しないので半分

[設問3]

- (1) 解答例と同様の趣旨を適切に表現していれば正解
- (2) 解答例以外原則別解なし。「デグレードテスト」、「ノンデグレードテスト」は同義として正解

[設問4] 解答例と同様の趣旨を適切に表現していれば正解

【講評】

プロジェクト運営に関する総合的な問題でした。解答数が比較的少なく、取り組みやすい問題だったため、選択した人が多かったようです。内容としてもやさしく、高得点を取った人も少なくありません。解答表現の拙さで減点されてしまうことがありますので、プロジェクトマネージャとしてのプロフェッショナルな表現をくれぐれも心がけてください。

設問1(1)のテストのスケジュールの考慮に関する問いは、設問文の記述から要求内容がとらえやすく、正答率は高かったと思われます。システムが連動していることと、同期をとってテストすることが解答の要点で、これらの内容が不足なく表現できて正解です。(2)は解答ポイントをしっかり抑えて解答する必要があります。「要件定義工程」にしっかりと言及しましょう。

設問2(1)は、「要件が十分に引き出されていないことで仕様変更の多発につながりかねないこと」が解答の要点で、その旨を適切に解答できれば正解です。(2)は「プロトタイピング」と「プロトタイプ」の違いに注意してください。プロトタイピングはプロトタイプを用いた開発手法のことで、プロトタイプとは試作品のことで、よって「プロトタイプ」という解答は得点を半分にしました。

設問3は容易な設問で正答率は高かったです。(2)につき、「デグレードテスト」、「ノンデグレードテスト」も正解としています。あやふやな表現も散見されました。注意しましょう。

設問4も比較的容易な設問でした。「担当者に直接指示しない」ことだけの解答は得点を半分にしました。U氏経由で指示することをしっかり解答しましょう。

問4 プロジェクトにおけるチーム編成

【採点基準】

[設問1]

- (1) 解答例と同様の趣旨を適切に表現していれば正解
- (2) 在庫管理サブシステム:「インタフェース設計能力」に言及し、解答例と同様の趣旨を適切に表現してい

れば正解

配送管理サブシステム：「人的調整能力」に言及し
解答例と同様の趣旨を適切に表現していれば正解

【設問2】

- (1) 解答例と同等の趣旨を表現できていれば正解
- (2) 指摘したサブシステム：別解なし，懸念した内容：
「A社との折衝経験がないこと」に言及し解答例と
同様の趣旨を適切に表現していれば正解

【設問3】

- (1) 配置されないサブシステム：別解なし
理由：「B社のシステム開発標準の知識欠如」に言
及し解答例と同様の趣旨を適切に表現していれば正
解
- (2) 「B社のシステム開発標準」に言及し解答例と同様
の趣旨を適切に表現していれば正解

【講評】

プロジェクトの要員管理，チーム編成に関する問題で
した。この問題は解答数が多く，しかも解答文字数も多
めで，解答表現をまとめるのが困難な問題だったと思わ
れます。しかし，手掛かりは多いので，じっくり取り組
み，的確に解答すれば高得点も可能です。文章記述の解
答においては，解答のキーワードをしっかり押さえるこ
とが得点につながることに注意しましょう。

設問 1 (1)は，基盤サブシステムの特徴に関する問い
で，比較的やさしかったと思われます。(2)は解答にキー
ワードをしっかり含めることが重要で，「在庫管理サブ
システム」については正答率が低かったようです。

設問 2 (1)の理由の説明は，配送管理サブシステムの
特徴を踏まえて比較的よく解答できていました。(2)の
「懸念した内容」もキーワードをしっかり押さえて解答
する必要があります。

設問 3 (1)「配置されないサブシステム」は比較的よ
く解答できていました。ちなみに設問 2 (2)もそうです
がサブシステムが正解でない場合，その後の解答も無条
件で不正解としています。「理由」については，「B社の
システム開発標準の知識欠如」の指摘ができて正解とし
ています。(2)も解答の要点は「B社のシステム開発標準」
になります。問題文の前の方にある記述は，考慮漏れや
見落としが起りやすいので注意してください。

一般的に記述式の解答は，問題文を踏まえて「言える
レベルで」解答をまとめることが大切です。また稚拙な
表現は避けてプロフェッショナルな表現を心がけてく
ださい。そうすることが得点力を高めますし，解答の実
力を養っていくことにつながります。

以上